
1. 6月補正予算案について

今回の予算案は、従来の「あたたかい京都」の上に、子どもから、若者、現役世代、お年寄りまで、誰もが「わくわくする京都」をつくるための歩みをスタートするため編成されたものであり、高く評価する。（評 価）

2. 中小企業支援について

質問要旨

中小企業支援に関し、次の諸点について、知事の所見を伺いたい。

（１）未だ続く中東情勢の緊迫化の影響、それに伴う物価の高騰、加えて政策金利の引上げ等により、中小企業においては、借入金の返済負担の増加のほか、原材料価格や人件費の上昇など厳しい局面となっており、全国的にも倒産件数の増加が見られる中、現在の府内中小企業の動向や状況をどのように掌握・認識しているのか。

答弁

山口副委員長の御質問にお答えいたします。

山口副委員長におかれましては、ただいまは会派を代表されまして、今回の予算案に対しまして高い評価をいただき、厚く御礼を申し上げます。

中小企業の支援についてでございます。

京都府が設置をいたしました「中東情勢・原油等に関する特別相談窓口」には、これまでに100を超える事業者から、燃料をはじめ、ナフサ由来の合成樹脂・プラスチック、塗料・接着剤、包装・梱包資材などにつきまして、価格上昇や入手困難といった声が寄せられております。

私自身もあらゆる機会を通じて、経済界の皆様方から直接状況をお伺いいたしますとともに、中小企業応援隊による伴走支援を通じて、中小企業の現在の動向や状況について把握しているところでございます。

中小企業応援隊からは、シンナーをはじめとする建設資材の価格が大幅に値上がりしているといった中東情勢による影響や、原材料価格・エネルギー価格・物流費・人件費などのコスト上昇が進む一方、価格転嫁が進まず利益が残らないなどのお声をお聞きしております。

このように、中小企業を取り巻く環境は、物価高騰や金利の上昇が進みますとともに、中東情勢の不安定化による原材料の安定調達に対する不確実性の高まりやコスト増が重なることで、受注抑制や納期の延期、生産計画の見直しを余儀なくされるなど、大変厳しい状況にあると認識しております。

2. 中小企業支援について

質問要旨

中小企業支援に関し、次の諸点について、知事の所見を伺いたい。

（２）日本銀行の金利引上げは、物価抑制や円安の是正が期待される一方で、当面、設備投資は冷え込み、また価格転嫁も簡単ではなく、売上げや収益に影響が出ることが懸念される。今回の予算案には、重点支援地方交付金の追加配分を活用し、ＬＰガスの料金支援を計上しているが、中小企業・小規模事業者の事業継続を支えるためには、各種補助金・支援金の拡充や制度融資における必要な金融支援の実施が不可欠であり、今後も情勢を見て機敏な対応が求められると考えるがどうか。

答弁

中小企業に対する支援についてでございます。

京都府におきましては、令和８年２月定例会で御議決いただいた予算によりまして、経営に苦しむ中小企業に対する、「資金繰りと経営改善が一体となった伴走支援」継続的な経営を実現するための「生産性向上の支援」など、中小企業の事業継続を支援いたしますとともに、資金調達の負担軽減を図るため、府市協調で実施しております制度融資について、全国トップクラスの低金利を維持し、借換に係る信用保証料の負担軽減も実施しているところでございます。

また、先月１日には、中小企業に必要な資金が行き届くよう、京都市と連携して、制度融資の取扱金融機関に対する要請文を発出し、実情に応じた迅速かつ柔軟な金融支援を求めたところでございます。

さらには、燃料油や石油由来製品のサプライチェーンが国内外に跨っており、これらの安定調達のためには国において対応いただくことが重要であることから、国に対しまして、「原油価格高騰等を踏まえた緊急要望」を行い、府民生活や事業活動に影響が顕在化しつつある府の現状を訴えますとともに、原油の総量確保、目詰まり解消のための流通の円滑化などについて求めたところでございます。

引き続き、経済情勢の変化を注視しながら、中小企業応援隊の伴走支援などを通じまして、中小企業の経営状況について、きめ細かな実態把握に努めますとともに、京都市とも連携しながら、資金繰り支援の拡充など、時機を逸することなく対応してまいりたいと考えております。

3. 保育施策の充実・強化について

質問要旨

保育施策の充実・強化に関し、次の諸点について、知事の所見を伺いたい。

(1) 従来から、子どもを取り巻く環境について、保育士の処遇改善や人材確保を求めてきた中、今回の予算案には、きょうと保育キャリアスタート支援事業として、保育士の人材確保・定着促進に向けた取組を計上しているが、本事業には、どのような効果を期待し、その結果を次の施策展開にどのようにつなげていくのか。また、今後の展望はどうか。

答弁

「きょうと保育キャリアスタート支援事業」についてでございます。

少子高齢化が進み、保育分野におきましても人手不足が深刻化する中、保育士の確保・定着に向けた取組を進めることが重要だと考えております。

このため、今定例会に予算案を提案しております「きょうと保育キャリアスタート支援事業」では、保育実習より前の段階で保育現場を体験できる有償インターンシップの実施を支援いたしますとともに、若手保育士を対象とした交流会を実施することとしております。

有償インターンシップにつきましては、子どもの笑顔や成長に触れ、各園で創意工夫された保育実践の体験により、保育という仕事のやりがいや魅力の発見、将来の就職先となり得る保育所等との出会いにつながるものと考えており、京都で保育士として働くことを希望する学生が増えることを期待しているところでございます。

また、若手保育士が対象の交流会につきましては、同年代や先輩の保育士との交流を通じまして、職場の人間関係や将来のキャリアに対する不安が軽減され、保育士として働き続ける意欲が向上することを期待しております。

こうした取組を進めるに当たりましては、保育士養成校や保育関係団体と課題や取組状況を共有しながら、連携して対応を行うこととしており、学生や若手保育士からの声も踏まえながら、今後の保育士の確保・定着に向けた施策の一層の充実につなげてまいりたいと考えております。

3. 保育施策の充実・強化について

質問要旨

保育施策の充実・強化に関し、次の諸点について、知事の所見を伺いたい。

(2) 国の調査では、全国で8割の保育施設が人手不足に悩んでおり、さらに民間の調査によると、保育士が退職する主な要因として、保護者への対応や、書類作業への対応、保育士1人で見ると子どもの多さに加え、低賃金と人手不足による休暇の取りづらさ等があるとされている。また、保育士資格保有者が就業しない要因として「給与が良くない」ことが大きいとされる中、本府もその課題を認識し、毎年、国への政策提言に正規職員雇用、保育士、幼稚園教諭・保育教諭の抜本的な改善を盛り込んでいるが、子育て環境日本一・京都の深化を図る一つの取組として、積極的に保育士等の処遇改善に向けた取組を進めることが重要と考えるがどうか。

答弁

保育士の処遇改善に向けた取組についてでございます。

保育士の確保・定着を進めるためには、給与水準の改善を図るとともに、働きやすい職場環境づくりを進める必要がございます。

このため、京都府では、保育士の職階に応じて求められる業務や能力等と処遇を連動させた、京都式キャリアパスにより、保育士のキャリアアップを通じた給与水準の引き上げの支援を行ってまいりました。

また、国に対しまして、継続的に処遇改善に関する要望を行っており、令和5年度から7年度にかけて、公定価格上の保育士などの人件費につきまして、21.2%の改善が実現したところでございます。

引き続き、更なる処遇改善を国に要望いたしますとともに、キャリアアップ研修などを通じた府独自の支援に取り組んでまいりたいと考えております。

また、働きやすい職場環境づくりにつきましては、事務負担の軽減につながるＩＣＴ機器等の導入支援、多様な休暇制度の導入に係る助言を行うアドバイザーの巡回支援などに取り組んでおり、引き続き、保育現場のニーズを踏まえ、保育士がやりがいをもって働き続けることができる環境づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも、保育士の確保・定着に向けた総合的な対策に取り組み、子育て世帯の方が安心して子どもを保育施設に預けられる環境を整え、子育て環境日本一・京都の実現につなげてまいりたいと考えております。